

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 18 日現在

機関番号：82688

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580144

研究課題名(和文) A Geographical Perspective on Women's Rural-bound Mobility, their Innovative and Synergistic Entrepreneurial Activities and their Contribution to Sustainable Rural Development in Japan and the EU

研究課題名(英文) A Geographical Perspective on Women's Rural-bound Mobility, their Innovative and Synergistic Entrepreneurial Activities and their Contribution to Sustainable Rural Development in Japan and the EU

研究代表者

鷹取 泰子 (TAKATORI, Yasuko)

一般財団法人農政調査委員会・調査研究部・研究員(移行)

研究者番号：30643283

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本とEU・ルーマニアにおける事例に関する調査・研究にもとづき、農村志向の女性の移動と移住した彼女たちの起業活動について取り扱いながら、彼女らによる革新的なビジネスと地域の農業システムとの相乗効果について探り、農村社会の持続可能性における起業家達の貢献について明らかにすることを目的とする。女性の農村志向の移動、農村ビジネスの展開に対し女性が進めた革新的な取り組み、地域の営農組織と農村企業との新たな共同関係、持続可能な農村コミュニティに対する農村起業家の社会的貢献に注目して調査した結果、隔世代への農家資産の継承など、興味深い現象が見いだされ、研究の成果は学会発表等を通じて公表された。

研究成果の概要(英文)：The present research, based on case studies from Japan and the EU/Romania, aims to investigate women's rural-bound mobility and their subsequent entrepreneurial activities as rural <entrepreneuses>. It explores the synergy of such innovative businesses with the local farming system, and demonstrates the entrepreneurs' contribution to the sustainability of rural communities.

The present investigation into rural women's entrepreneurship focused on 4 aspects: (1) women's rural-bound mobility, (2) women's innovative approaches to rural business development, (3) new rural enterprises' synergic relationship with local farming system, and (4) rural entrepreneurs' social contribution to sustainable rural communities.

We found some interesting phenomena, such as devolution of farm-based resources on the skipped-generation. The results of our research were presented at academic conferences.

研究分野：農業・農村地理学

キーワード：起業家 農村志向 女性 有機農業 直売所 ルーマニアアントレプルヌース 隔世継承

## 1. 研究開始当初の背景

日本およびEUの農村社会は、新しい農村起業の促進を介した諸活動の多様化に依存しており、その起業は雇用と収入をもたらす、持続可能な発展を助けている。また、EUでは、農村女性の多様な役割および起業家活動に関する多数の調査がある(Little, Panelli 2003)<sup>\*1</sup>。近年、そうした研究は、ルーマニアにおける農村の女性起業家達について向上している状況や、農村の多様化、農村企業、ルーラル・ツーリズムへの要因をもたらすようなEUの共通農業政策(CAP)の枠組みの役割をも明らかにしてきている(Buller, Hoggart 2004)<sup>\*2</sup>。ルーマニアのカルパチア山脈における農村社会に関して、佐々木ほか(2011)<sup>\*3</sup>がおこなった既存の調査では、外国で働いた後に戻ってきた農村女性たちによって「輸入された」革新的なビジネスモデルについて指摘している。また、日本ではそうした研究が農村地理学で行われてきたが、例えば栃木県の家族経営の農場に注目して行われた鷹取(2013)<sup>\*4</sup>による現地調査では、女性達が経営する農村企業と地域の営農組織との協働活動に注目し、日本における農村志向の移住に関して増加する傾向について指摘している。

### <文献>

- \*1 Little, J. Panelli, R. (2003): Gender Reseach in Rural geography. Gender, Place and Culture, Vol. 10, No.3
- \*2 Buller, H., Hoggart, K. (2004): Women in the European Countryside. Ashgate
- \*3 佐々木リディアほか(2011): カルパチア山村ルカルにおける兼業・プルリアクティビティーの変化-ルーマニアにおける農村の持続的発展の危機とその再生の可能性. 日本地理学会発表要旨集 (2011s).
- \*4 鷹取泰子(2013): 有機農業に関わる女性の就農構造とネットワークの構築関東地方における農業生産法人の事例から. 日本地理学会発表要旨集 (2013a).

## 2. 研究の目的

本研究は、日本及びEU・ルーマニアにおける事例に関する調査・研究にもとづき、農村志向の女性の移動および移住した彼女たちのその後の起業活動、つまり農村の“アントレプレヌース”(女性起業家)の活動について取り扱いながら、彼女らによる革新的なビジネスと地域の農業システムとの相乗効果について探り、農村社会の持続可能性における起業家達の貢献について明らかにすることを目的とするものである。

その際、とくに以下の4点に注目した。すなわち、(1)女性の農村志向の移動、(2)農村ビジネスの展開に対し、女性によって進められる革新的な取り組み、(3)地域の営農組織と農村企業との新たな共同関係、(4)持続可能な農村コミュニティに対する農村起業家

の社会的貢献、である。

## 3. 研究の方法

本研究は、詳細な現地調査にもとづいて行われ、日本およびEUの様々な事例地域での調査が重点的に進められる。両地域に共通する問題点と、それに対する可能性の高い解決策を提示しながら、比較検討する方法により、双方の相違点および共通点を明らかにしていく。研究代表者および担当者が事例地域でこれまでに蓄積してきたデータや知見、経験に基づき、経年的な観点・視点を加えるとともに、農業経済学、農村社会学、ツーリズム研究といった学際的な資料・文献も活用する。そして、関連する諸分野の研究者らと適宜情報交換しながら、成果の検証を確かにしていく。

また、研究チームのメンバーの特性に鑑み、EU・ルーマニアおよび日本を主な研究対象地域とする。また、3年間の研究期間において、下記の手順で研究を遂行する。

- (1) 女性の起業家と農業者との関係およびその動向に関する予備調査を遂行し、その検討を行う。
- (2) 農村地域への新規参入者の女性や起業家が当該地域に果たす役割等について、仮説を組み立てる。
- (3) 農村の起業家のネットワークおよび地元の女性農業者とその共生関係等に関する現地調査を遂行し、仮説の検証を行う。
- (4) 事例調査(予備調査含む)の比較、検討および類型化などを試み、起業家の女性らが農村社会に果たす重要な役割・機能について考察する。

なお、本研究課題の主たる研究対象は女性の起業家および農業者であり、彼女らの農山村における活動等に注目し、現地調査が遂行されるが、調査先はそれに限定されるものではなく、現地調査を遂行する段階で、網羅的にヒアリング調査等を進める。

## 4. 研究成果

本研究から明らかになった結果は下記の通りである。

### (1) 女性の農村志向の移動について

日本やルーマニアでは、まだ大きな潮流とまではいかないまでも、さまざまな動機から農村を志向し、I・U・Jターンの形で移住してきた女性起業家が活動していることがわかった。

例えば、北海道十勝地方の現地調査では、農場ツアー等を企画する会社を開業した起業家、アメリカからCSAを逆輸入した夫婦、注文生産による高級お菓子作りのパティシエール等、経営規模はまだ小さいながら起業という形で地域に根ざした活動と協働を実

践しているという等の共通点が見出せた。

またルーマニア・トランシルヴァニア地方の農村では、民主化以降、自給的もしくは半自給的な小規模農家が大勢を占めてきたが、2000年代半ば以降、とりわけEUへの正式加盟以降、自給的で小規模な農業経営を生活の基盤にし、それをさらに発展・拡大させる形で起業活動を行う起業家が現れてきたことがわかった。たとえば、自宅の一室でレストランを運営するようになった農家の主婦、祖父の農地を受け継ぎ原料を厳選しながら農産加工を始めた女性起業家、古い農家住宅を改修し最終的には親世代も引き連れて移住したペンション経営者、自宅で畜産経営を行いながら夏場はペンション管理者を兼務する女性マネージャーとそれを導いた女性起業家(ペンションの所有者)などの存在が確認できた。地元出身で移動起業家ではない女性もいるが、現在の活動を実現する契機として、女性移住者の影響を少なからず受けていることがうかがわれた。

(2)農村ビジネスの展開に対し、女性によって進められる革新的な取り組みについて

日本やルーマニアでは、共に女性の農業者の存在・活躍・経験が、既存の起業・経営とは異なった視点から、重層的で多様な展開を見せる一因となっていた。共通している要素としては、食の安心・安全に対する関心の高さ、農家の家事・子育てを切り盛りする延長に位置付けられた起業、自身の価値観やライフスタイルを重視した起業活動、多様な農産加工・ツーリズム活動の実現、他業種とのコラボレーション、有機農業や環境保全といった価値観を共有した活動(例・WWOOF)などが確認できた。

例えば大規模農家が多く存立している北海道十勝地方でも、近年は観光・ツーリズムが重要視されるようになってきている。(1)で例示した農場ツアー等を企画する女性起業家が現れたように、先進的な農業地域において、ツーリズム活動の構築を支えている現場では、女性の革新的なアイデアが契機となっている例が確認できた。それをさらに展開させる地域要因としては、それぞれの移住者のライフステージの変遷とキャリアの蓄積にみる内容の豊富さ、フードシステムにおける地産地消への動き、有機農業者等のネットワークなどが関わっていた。地域内の農業はグローバル化の影響を強く受ける品目も多いが、現在彼らとその仲間によって取り込まれつつあるルーラル・ツーリズムの多様化の諸相が、持続可能な農村空間やネットワークの重層化に寄与しうる等、今後の動向が注目された。

またドイツの環境NGOの主導で始まった有機農場づくりを契機に有機生産に関わることになったルーマニア・トランシルヴァニアにおける農家では、EUの共通農業政策(CAP)による支援策の諸条件に対応するため、

女性が代表を務めており、女性起業家が活動するようになった背景として、それを支援する社会的システムの存在・影響もうかがわれた。

(3)地域の営農組織と農村企業との新たな共同関係について

農村志向の諸活動に関わる起業家たちは、地域の農業やさまざまなコミュニティと複合的に結びつき、自身の事業の安定等を模索しながら、互いの結束を強めたり、新たな絆を生んだりしていた。ただし、1つの大きな傾向として、EUやNGO等により支援・維持されているルーマニアの農山村に対し、日本の農山村の場合、自治体や国の制度・諸団体・仕組みに大きく支えられるという異なった実態が、2国間の事例調査およびその比較から推測された。

例えば日本の岩手県西和賀町の事例から、若い移住者らを支える1つのシステムは「地域おこし協力隊」の事業であった。同町による彼らの活用方策は未だ手探りの部分も大きく、隊員らの意向と配属先に関するギャップ等が認められたが、5年間で10名の隊員を採用、うち2名は任期を終了後も引き続き町内に在住、2015年7月時点で8名の隊員が地域の活動に携わっていた。また地域の農林産業、食文化に関する豊富な知識・経験を持つ様々な達人・先人の存在・影響は大きく、地域づくりに向けて意欲的な彼らが町内で活動を継続・定住化するにあたり、良き理解者・支援者となっていることがわかった。大都市圏での進学・就労経験を経て、様々なきっかけで訪問した西和賀町に魅力を感じた/再発見した若者たちは、互いに協力し合いながら、移住前の経験・特技・ネットワーク等を現場での活動に生かすのみならず、旧態依然とした地域社会へ時に果敢に働きかけつつ、この地域で生きる道を様々な模索している様子が確認できた。地域おこし協力隊の隊員やそのOBによる積極的な活動や、有機農業や環境に配慮した価値観を共有するネットワークなどの存在も注目された。

また、北海道十勝地方における調査から、保守的な農村社会にあって、インターネット、スマートフォン等を上手く活用し、既存のコミュニティとの摩擦を極力回避しながら、農村女性のネットワーク構築の準備を進めるなど、新しい活動の地盤を築く様子がうかがわれた。

ルーマニア・ムレシュ県およびブラショフ県では、起業家らを支援する様々なNGO等の果たす役割が大きいことがわかった。我々がヒアリングした起業家を支える団体だけでも、ルーマニアの農業や森林、環境等の重要性を認めるNGOがフランス、イギリス、ドイツ、スイス各国から支援を行っていた。またEUによる支援の影響も見逃せないが、その支援を現場レベルで享受できる規模・程度の大小については地域差がうかがわれ、NGO等の

存在やそのノウハウ、団体としての力の大きさが、農村地域の持続性をも左右しうることが示唆された。

また、ルーマニアのトランシルヴァニア地方やマラムレシュ地方において、移動起業家、出稼ぎや大学を終えてUターンした若者たちによって、ツーリズム活動の先進地である西欧諸国の価値観がルーマニアの農村地域に導入され、アグリ・ツーリズム、フード・ツーリズム、エコ・ツーリズムなど、多様なツーリズム活動として展開されており、世界各地の観光客を惹き付け、また新たな移住者を生んでいた。その結果、旧来の農業・畜産経営にとどまらない、新たなビジネスチャンスが農山村に生まれつつある様子がうかがわれた。

#### (4) 持続可能な農村コミュニティに対する農村起業家の社会的貢献について

移住者による起業や経営の多角化において、地域資源の認識・再評価、適切で持続的な農場・法人経営への意識向上、雇用創出等の効果が農山村にもたらされていることが伺われた。

例えばルーマニアの農家の多くは小規模な自給的農家であり、本来的に農薬や化学肥料を多用する農業経営はあまり行われていないが、(2)で例示した有機農場が活動する集落でも、認証を取得する形での有機生産について十分な共感が得られていないという現実があった。しかしながら、理念として有機農業への共感を生むだけでなく、例えば経済的に有利で魅力があることも重要であると捉えており、夫は地元での啓発・普及活動に従事しながら、有機農業の意義や将来性をアピールすることで、農村に若者や退職者を惹き付け、将来的な農村の持続性に繋げることを目指している様子が確認できた。

また、日本、ルーマニアに共通した現象として、近年活発になってきたSNSを移住者たちが積極的に活用し、SNSを通じて地域内外との繋がりを持つことが日常となっていることがわかった。彼らとの繋がりを維持しながら、自身が築いてきたネットワークに向けて、農山村の魅力の発信をしている実態が認められ、今後への影響、効果について着目しながら観察していくことが重要であろう。

#### (5) 展望・まとめ

本研究を通じて、とくに注目する知見と今後注視したい課題等の総括・展望は以下の通りである。

(i) 女性移住者・農業者・起業家の農山村における貢献・寄与は重要であったが、仮説として想定していた範囲から大きく外れるものではなかった。しかし、とくに本研究の新たな知見として、日本ではポスト・バブル世代<sup>\*1</sup>、ルーマニアではポスト・コミュニスト世代<sup>\*2</sup>の移住者による貢献とその重要性が注目されうることが示唆された。そうした農村

志向の若者にとって、農山村へのアクセスをより円滑な形で高めることが期待されると同時に重要であることが推測された。実際に移住を検討するに際し、農山村における持続的な生活を目指す若者が、自身の趣向にあったロールモデルを見出し創出する可能性について検討し、日本の女性農業者・移住者・起業家の事例でその一部を提示した。

(ii) EUのルーマニア・トランシルヴァニア地方において、6年前の研究事業にもとづく調査結果を追跡する形で調査を行った結果、CAPの運用を筆頭に、地域の社会・経済的な状況が大きく変化している中、農山村における既存産業(林業、畜産業、その他関連産業)が頭打ちとなっている状況が覗かれた。そうした背景を受け、農山村を志向する移住者が興すツーリズム活動が、地域の問題解決を図る一つの策として見いだされつつあることがわかった。しかしながら移住者と住民との良好な関係構築、ツーリズム活動の具体化にはまだ課題が残っており、今後期待されるツーリズム活動の活発化については、動向を注意深く観察する必要がある。

(iii) 若い移住者らが共通して重要視する価値観として、ライフスタイルの充実が指摘できる。生産主義の時代には重要であった経済的な価値は相対的に低くなり、自身やその家族と過ごす人生、そのライフスタイルの実現と充実の手段に過ぎなくなっていることが示唆された。そして、起業家らがローカルの農村社会に依存するばかりでなく、例えばSNSによる情報共有(口コミ等)を積極的に活用する人も多く、その結果国内はもちろん、欧州や米国などに住みながら農村志向をもつ人々を惹き付けていることがわかった。

(iv) インターネットの発達に加え、交通インフラの整備は、農村出身者がUターンする要因の一つであり、通常は自然豊かな農村で生活を送り、必要に応じて都会やそのサービスを利用するというライフスタイルの確立に寄与しうることがわかった。

(v) 起業家として活動する若者達は大学・短大卒以上の専門性の高い教育を受けている事がほとんどで、長短期を問わず外国で滞在し、自身の目指すライフスタイルに繋がる経験を重ねてきたものも少なくない。彼らが起業家としてのキャリアを開始するにあたり、生産主義時代を生き抜いた親世代や祖父母世代から有形無形の支援を受けていることがうかがわれた。移住起業家にとって経済的な自立は一つの到達点であるが、旧来の補助金依存の農村振興・農業経営ではなく、先代から可能な限り資産を受け継ぎ、利活用している。とはいえ、補助金の支援を受けられた場合は自身の目指す経営・ビジョンへの速度を加速するなど、たくみな経営戦略をもつ起業家も

少なくない。そのような世代間におけるライフスタイルや価値観の相違、そして世代を超えた文化の継承(隔世継承または隔世承継)などの現象が現在の農村における新たな動向に繋がりがうることが示唆され、日本とルーマニアにおいて、複数の事例を確認できたが、その汎用性についての検証までには至らず、今後の課題として残された。

なお、本事業から得られた知見の一部は、並行して進めていた研究課題(科研費課題番号16K13146)へと反映されており、引き続きその議論を深めていく予定である。

注\*1: バブル時代を社会人として経験していない世代、具体的には2016年時点で概ね15-45歳を想定(ただし、1993年時点で最終学歴を終えていないこと)

注\*2: コミュニスト時代(共産主義国時代)を社会人として経験していない世代、具体的には2016年時点で概ね15-49歳を想定(ただし、1989年時点で最終学歴を終えていないこと)。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

1. 佐々木リディア 2017. トランシルヴァニア・アルプス山脈における移牧の特色と人々の暮らしー <表紙写真でめぐる旅・32>, 高等学校 地理・地図資料, 査読無, 1 学期号, p.2, 帝国書院.
2. 鷹取泰子 2017. 放牧酪農の基盤は畑の土作りから = 北海道・十勝しんむら牧場の歩み =, Agrio, 査読無, 147 号, pp.7-9, 時事通信社.
3. 鷹取泰子 2016. 雲仙の麓で「安心・安全な野菜づくり」= 島原自然塾で夫婦がたどった軌跡 =, Agrio, 査読無, 111 号, pp.14-16, 時事通信社.

[学会発表](計 10 件)

1. Sasaki, L. and Takatori, Y. 2017. Green Entrepreneurship: Innovation for Ecotourism in Rural Transylvania, Romania. 日本地理学会春季学術大会, 茨城.
2. 鷹取泰子, 佐々木リディア 2017. 農山村地域におけるポスト・バブル世代の貢献および女性のロールモデルの構築 - 北海道の事例等における起業活動や農場経営の多角化 -. 日本地理学会春季学術大会, 茨城.
3. Takatori, Y. and Sasaki, L. 2016. Socio Supporting and Promoting System of Rural-bound Young Migrants to Rural Area and the Sustainability

Potential and Continuity of "Local-community Vitalization Aids" in Japan. 24th Annual Colloquium of the International Geographical Union Commission on the Sustainability of Rural Systems, Liege, Belgium.

4. Sasaki, L. and Takatori, Y. 2016. Relocating Entrepreneurs and their Contribution to the Diversification of Rural Tourism in Transylvania, Romania. 日本地理学会春季学術大会, 東京.
5. 鷹取泰子, 佐々木リディア 2016. 農村志向の若手移住者等による協働のシステムと共有のネットワーク - 北海道十勝管内の事例から -. 日本地理学会春季学術大会, 東京.
6. 鷹取泰子, 佐々木リディア 2015. 農村志向の若手移住者等による協働とその社会・経済的支援システム 岩手県西和賀町の事例から. 日本地理学会秋季学術大会, 愛媛.
7. Sasaki, L. and Takatori, Y. 2015. Contribution of NGOs to sustainable rural development in Southern Transylvania, Romania. 日本地理学会秋季学術大会, 愛媛.
8. 鷹取泰子, 佐々木リディア 2015. グローバル化社会における起業家活動および農村システムの変容 ルーマニア・ムレシユ県の有機農場を事例に. 日本地理学会春季学術大会, 東京.
9. Sasaki, L. and Takatori, Y. 2015. Women entrepreneurs' contribution to rural socio-economic diversification - Case studies from Romania. 日本地理学会春季学術大会, 東京.
10. 鷹取泰子, 佐々木リディア 2014. 農村志向の移住起業家によるルーマニア・ツーリズムの構築 - 北海道十勝管内における起業家の諸活動と協働の事例から. 日本地理学会秋季学術大会. 富山.

[図書](計 1 件)

1. 鷹取泰子, 佐々木リディア 2017. 農村を志向して移動する女性の革新的かつ共同的起業活動および持続可能な農村発展への貢献: 日本と EU に関する地理学的展望 (WISEA 研究チーム・ワーキングペーパー), 80p.

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://takatorilab.org/wisea/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

鷹取 泰子 (TAKATORI, Yasuko)  
(一財)農政調査委員会・調査研究部・研究員  
研究者番号：30643283

### (2) 研究分担者

佐々木 リディア (SASAKI, Lidia)  
(一財)農政調査委員会・調査研究部・研究員  
研究者番号：60600377

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

ガブリエラ・ダルマン (DIRLOMAN, Gabriela)  
“Nicolae Kretzulescu” Commercial  
High School Bucharest